

## 今年度の校内研究授業 その2 (一色小学校の取り組み)

※今年度もすべての学校で研究授業が行われました。どの学校でも、各校の教育目標そしてにのみや学園の教育目標である「認め合い、高め合う、二宮の子」の実現を目指した授業が展開されていました。今回は一色小学校の実践を紹介いたします。

令和7年度一色小学校の学校研究主題は「見方・考え方を働かせ、認め合い・高め合う一色の子を育む授業づくり～逆算して考え、発問と資料提示で作る授業デザイン～」と設定しました。社会科・生活科を中心に「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」を重視し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりを行いました。主題に迫るために重視した点は、「逆算して考える」「発問の工夫」「資料提示の工夫」の3点です。授業をデザインする際に、これらを意識して事前検討会を行い、研究を進めました。

### ★「逆算して考える」



(ゴール「ねらい」を決める)



(道筋「計画」を考える)



(どんなアナウンス「発問」・看板「資料」を立てるか考える)

### ★「発問の工夫」



思考を揺さぶる発問

比較・関連付けを促す発問

多角的な視点を促す発問

理由や根拠を問う発問

発展的な問いへと繋がる発問

### ★「資料提示の工夫」



思考を促す資料

多角的な視点を提供する資料

子どもの生活や実態に即した資料

比較検討がしやすい資料

思考ツール

11月20日に行った6年生の社会科「全国統一への動き」の授業を受け、3年生「昔の道具とくらし」の授業公開を行いました。授業を考える際には、教職員全員で事前検討会を行い、学習のねらいや魅力的な発問などを考えました。教職員が授業者のねらいや意図を理解したうえで参観することができ、授業後の研究協議がより有意義なものになりました。また筑波大学附属小学校由井園健先生に助言もいただき、発問や資料提示の質を高めることができました。

3年生の授業では、洗濯板での洗濯を実際に体験することを単元の導入としました。洗濯の大変さの実感するとともに、洗濯機の便利さにも気づいていました。家庭での様子と学習したことを関連付け、「洗濯板から洗濯機に変わったから、洗濯をする時間が短くなって、他のことをする時間が増えていると思う。」など道具が進化するとともに、暮らしの様子が変化していることに気づくなど、学びを深めていました。

児童は日常生活に関連した発問や体験を通して学習課題を自分事として捉えることができました。その結果、「学びたい・知りたい」という気持ちが高まり、主体的・対話的な場面が増え、深い学びに迫ることができました。このような児童の姿が教職員の授業づくりの熱をさらに高めています。次年度も「チーム一色<sup>いっしき</sup>」という言葉とともに、教職員でより良い授業づくりを目指し、研究に取り組んでいきたいと思えます。

3年生



感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

